



高品質な刺繍を効率よく完成

細かな刺繍で布製品や革製品の付加価値を高める

鈴木刺繍

事業内容と沿革

縫製から刺繍へ転身、顧客層も広げる

鈴木刺繍は創業者の鈴木ミサヲ代表が、昭和23年に大阪市旭区の千林商店街で衣料品店「大和屋」を開業したことでスタート。昭和25年には奈良県に縫製工場を設置。鈴木ミサヲ代表は「肌着から上着まで、量産品にも別注の高級品にもあらゆる衣服を手がけた」と胸を張る。

高度成長期に入り、将来にわたる持続的な成長をするには縫製工場では限界があると判断。縫製マシンは作業者が1人ずつ担当する必要があったため、取引先の助言も受けて自動化による大量生産が可能な刺繍機を導入。昭和54年に刺繍加工業に舵を切り、新たな船出をした。高品質の仕上がりが好評で、「紹介などで次々と仕事がもらえるようになった」と鈴木代表は振り返る。

当初は縫製工場時代の顧客から服飾の刺繍加工を請け負っていたが、評判が広まり寝具や服飾雑貨などに顧客層が広がっていった。さらに、革製品やナイロン製品など、対応する素材も多様化。工場の作業着やスポーツチームのユニフォーム、その他、個人客の依頼など、さまざまな依頼が舞い込むようになった。

強み

素材・デザインに応じた刺繍で多様な依頼に対応

素材や用途で特化した刺繍加工業が多い中、多様な依頼に対応できるのが鈴木刺繍の強み。オーガジーのような薄手の布からデニムのような厚手の布、ニット製品にも対応できる。ランドセルなどの革製品やナイロン素材も依頼を受けては実績を重ね、素材に応じた刺繍加工が可能になった。高い対応力は「縫製工場時代に特定の製品だけでなく、分野を問わず縫製できた経験が生きている」と鈴木代表は語る。

素材やデザイン、大きさに応じて、糸の太さや針目の数、サテン打ちや畳打ちなどの加工方法を使い分ける。通常よりも太い糸を使用して表面の凹凸を出し、風合いを高める太糸刺繍や、スパンコールやラインストーンを刺繍に交ぜ、華やかでインパクトのあるデザインに仕上げる装飾刺繍など、技術の応用幅は広い。

6台の刺繍用マシンを所持しているため作業の効率性にも絶対の自信を持ち、アパレルメーカーや寝具メーカーなど定期的に量産品の依頼があるユーザーが設定した納期は必ず守っている。個人からの依頼は2、3日から1週間を目安に完成。仕上がりの美しさと短納期を両立することでリピーターを確保している。



革製品にはスパンコールも活用



専用マシンで靴下への刺繍に対応



パソコンでデザインを決定



絵画のような装飾刺繍も手がける

- 企画・提案
- 試作・受託
- 短納期対応
- 多品種少量
- 量産対応
- コスト相談
- オンライン

カドマイスターの取り組み

顧客のニーズを満たすデザインを提案

依頼どおりの刺繍を仕上げるだけでなく、デザイン・企画の提案も行える。デザインの設定から実際の加工までを一貫して対応できるのも強みとなっている。鈴木代表の長女である鈴木加代子企画部長がデザインを担当。顧客のニーズを聞き出し、色や形から刺繍加工時の針数や打ち方、糸の選定などを工夫する。主要取引先の寝具メーカーなどの大手企業からも、刺繍加工の現場を知り尽くした視点による提案は高い評価を受けている。

個人客や小ロットの顧客に対しても提案力は生きる。予算が限られていると相談を受けることも多いが、当初のデザインより小さくしたり、色数を減らしたりなどの変更を提案して加工コストを抑えられるようにする。繊細な刺繍加工は高価格というイメージがあるが、「プリント加工と違い版代がかからないため融通が利きやすく、小ロットでこそ力を発揮する」と鈴木部長は力説する。

あらゆる刺繍をデザインから加工までロットを問わず手がける



代表 鈴木 ミサヲさん

昭和25年に縫製工場を設立、高度成長期の昭和54年に刺繍加工へ参入し、約70年にわたり日本の衣料業界の一端を担ってきました。衣料品だけでなく、寝具や服飾雑貨、革製品など、刺繍加工を行う対象はさまざまです。大量生産品から個人向けの一点モノまでロットを問わず受け付け、デザイン制作の相談にも応じており、多様化するニーズに合わせた仕事を進めています。近年は日本製であることを押し出し、加工の品質の優位性をアピールしています。私たちの「ものづくり」で多くの人の要望に応え、満足度向上を目指しています。

主な事業内容
布製品や革製品、ナイロン製品などへの刺繍加工
主な取引先(納入先)
アパレルメーカー、寝具メーカー、革製品、服飾雑貨メーカー

【住 所】〒571-0015 大阪府門真市三ツ島1-34-11
【TEL】072-884-1650
【FAX】072-882-0386
【創 業】昭和23年4月【設 立】昭和54年4月
【資本金】500万円【従業員】8名

今後の展開

細やかさを追求した刺繍で新規開拓にも取り組む

デザイン性の高い刺繍を得意とする鈴木刺繍だが、平成20年頃から企業の作業服などの名前入れの刺繍も手がけている。今後は利益率を高めるため、顧客から依頼品を受け取り加工する体制から、自ら商品を選定して名前入れを行い販売することを視野に入れる。依頼件数は安定しているが、受注待ちだけではなく姿勢でいっそうの成長を目指す。

対応できる加工をさらに増やすため、最新型の高速刺繍マシンを随時導入していく計画を立てている。改良の進んだマシンを使うと、より細かな針打ちができ、小さな文字なども見えやすくなり、デザインの幅が広がると期待している。

平成27年にフェイスブックを開設し、インターネットを活用した情報発信の強化に取り組んでいる。従来の顧客による口コミに加え、加工事例の写真に目を留めた新たな顧客の獲得につなげている。さらに情報発信力を高め、今までにない分野からの依頼を引き受けていきたいと意気込んでいる。

<http://sewingstudiosuzuki.wixsite.com/sewingstudiosuzuki/>

